長野市立

博物館だより

第22号

左・田植の図

右・収穫の図

第30回特別展

星との対話

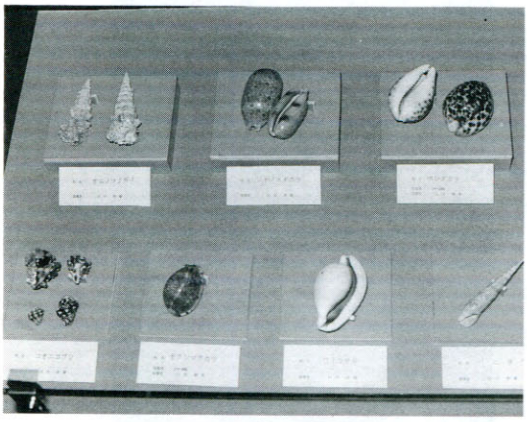
1992年7月12日～8月30日

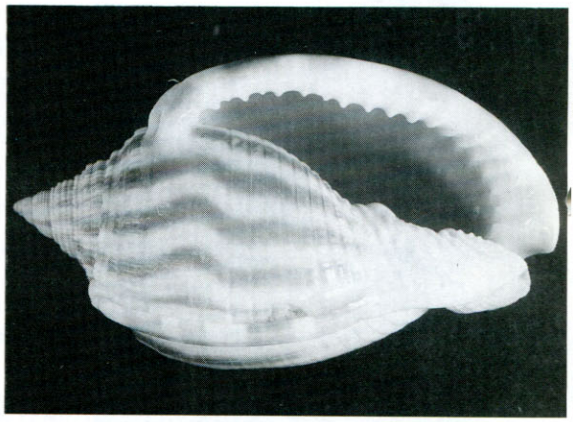
プラネタリウムの番組自主制作を始めて10周年を迎えたのを機会に、宇宙や星をより身近なものにしてもらうためにプラネタリウムや星空をテーマにした展示「星との対話」を開催しました。当館で制作したプラネタリウムの番組の数は41になりましたので、それぞれの番組で使った原画1600点余りのうち約300点をはじめとして、星図や望遠鏡などの天体観測用具、小型プラネタリウムや平面星座投影機を、そして、星座というものは生まれなかった日本では昔から特定の星の並びをひしゃくぼし（北斗七星）とかつづみぼし（オリオン座）、いっしょうぼし(プレアデス星団）というように呼んでいましたので、そういった日本の星を資料と写真、イラストで展示しています。また、長野県は星がよく見えることで有名ですが、それを裏付けるように東京大学理学部木曽観測所（木曽郡三岳村）や国立天文台野辺山宇宙電波観測所、太陽電波観測所（南佐久郡南牧村）などの国立の天文施設がたくさん集まっています。それらの天文施設の紹介をすると同時に、サンシャインプラネタリウム主催で行っている「サンシャインプラネタリウム天体写真コンテスト」の入賞作品64点も同時に展示しました。アマチュアでは最高レベルの天体写真をご覧いただくことで、宇宙の美しさの一端にふれることができることと思います。

茶臼山自然史館 第７回特別展

いろいろな海の貝

1992年７月５日～９月27日





茶臼山自然史館では、７月５日(日)から９月27日(日)までの間、第７回特別展『いろいろな海の貝』を開催しています。

自然景観が変化に富んでいる日本列島の近海は、約6000種もの貝類が生息している貝類の宝庫です。また、私達は食用として、あるいは装飾品などの材料として貝を利用することで、昔から貝と深く係わり合ってきました。しかし、海のない信州にすむ私達には、貝の鮮やかな色彩や多様な形態、生きている貝の様々な生態に親しむ機会があまり無かったと思われます。

今回の特別展では、200種類以上の海の貝の標本を貝のすみ場所ごとに区分して展示しています展示した貝のなかには、ミルクイ（ミル貝）・バカガイ（アオヤギ）・トリガイなど、私達が寿司屋さんなどで口にする貝や、サクラガイ・ハルシャガイ・ベニガイ・ホシダカラガイなどの色彩や模様の美しい貝、コンペイトウガイ・オニノツノガイ・ホネガイなどの変わった形をした貝など、おもしろい貝がたくさんあります。また、魚津水族館の提供による、イモガイが魚を飲み込んでいる写真や、ホラガイがヒトデを食べているところなど、貝の珍しい生態を記録した写真も展示しています。

ところで、現在の長野市は海から遠く離れていますが、かつては周辺に海が広がっていた時代もありました。当時の海の様子は、西部山地の地層の中から採集される、海の貝の化石から知ることができます。特別展では、長野市周辺から産出した貝の化石を、生態や生活場所がわかっている現在の貝と比較して展示するコーナーも設けました。化石を通して当時の海の姿を具体的に想像していただくことで、郷土の生い立ちについても理解を深めていただけると思います。皆さんのご来館をお待ちしております。

博物館の所蔵資料から① 和田英関係資料

長野県は戦前まで蚕糸王国として栄えました。こうした蚕糸業の隆盛の基礎を築いた一人として和田（旧姓 横田）英をあげることができるでしょう。

明治のはじめ、殖産興業政策の一貫として群馬県に官営の富岡製糸場が開設され、ここで多くの工女たちが新しい技術を学びました。そうした工女のなかに横田英がいました。英は、富岡での経験をもとに、出身地である松代西条（六工）の地に、長野県初で全国的にも極めて早い時期の民営製糸場、六工社（ろっこうしゃ）を開設しました。

当博物館には、後年、英が富岡製糸場で学んだときから、六工社ができて初めて横浜で売り出したときまでを記した回想録である、『富岡日記』の原本が寄託されています。

『富岡日記』は３部から構成されており、その内容は、(1)「明治六・七年松代出身工女富岡入場中の略記」・(2)「明治七年七月から十二月まで　大日本帝国民間蒸気器械之元祖六工社創立第一年之巻　製糸業之記」・(3)「明治八年一月横浜に於いて大日本蒸年器械之元祖六工社製糸初売込」となっています。このうち、(2)と(3)は合本となっており、計２冊に分冊されています。（現在常設展示室に展示中です）

これとは別に、和田家からは、英が記した「我が母の躾」や、英の父、数馬が富岡製糸場で写した「プリューナ条約書」、英が長野県営製糸場で教えていたときの宿舎割や、『富岡日記』続稿である、「第二年目開業」等の自筆原稿のほか、長野県営製糸場の外観と内部の写真・英の肖像写真などが寄託されています。このほか、和田家から寄託を受けている資料の中には、英が富岡日記を執筆する過程で推敲を重ねていたことがわかる資料（同一題名で別内容の原稿など）が含まれているなど、資料的価値は非常にたかいといえます。

（H）

資料名	寄託者（敬称略）	備考
富岡日記「明治六・七年松代出身工女富岡入場中の略記」「明治七年七月より一二月まで大日本帝国民間蒸気器械之元祖六工社創立第一年之巻　製糸業之記」「明治八年一月横浜に於いて大日本蒸気器械之元祖六工社製糸初売込」	中沢　泉	『定本富岡日記』として活字化
我が母の躾	和田一雄	信濃教育1032号
「第二年目開業」		同　上
六工社創業二年目の春		未　稿
長野県営製糸場寄宿舎名簿		未　稿
『富岡日記』の一部？		未　稿
「御雇仏国人フムユナ条約書」		未　稿
長野県営製糸場外観写真		
長野県営製糸場内部写真		
和田英肖像写真		

博物館だより No.22　1992.6.30
編集・発行　長野市立博物館
〒381-22　長野市小島田町１４１４
☎（0262）８４-９０１１